
第6回モニタリング会議 ご説明資料 (2015年4月～2016年3月業績報告)

2016年6月28日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
□ 全社BS	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

計画と実績の対比（全社PL）

全社の2015年4月～2016年3月実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数字は、旅行業（とさでんトラベル）との合算であり、とさでん本社との合算数値となります

	単位: 百万円			
	2016/1～3月 第4四半期	2015/4～2016/3月 12ヶ月	2015/4～2016/3月 12ヶ月	達成率 ②÷①
	実績	計画①	累計実績②	
売上高	1,359	5,731	5,922	103%
売上原価	144	666	778	117%
差引収益	1,216	5,065	5,145	102%
人件費	601	2,648	2,621	99%
厚生費	102	304	368	121%
動力費	80	534	372	70%
修繕費	66	308	315	102%
物件費	28	120	109	91%
経費	235	1,009	947	94%
諸税	12	105	68	65%
減価償却費	108	425	419	99%
営業費計	1,232	5,454	5,219	96%
営業利益	-16	-389	-74	-
営業外収益	21	56	92	165%
営業外費用	21	78	83	107%
経常利益	-16	-411	-65	-
特別利益	509	470	553	118%
特別損失	134	138	263	191%
税引前当期利益	359	-78	225	-
法人税等	65	2	73	-
当期純利益	294	-80	152	-

＜事業再生計画比＞

- 左記表のとおり、売上、営業利益、経常利益、当期純利益すべて計画を上回り達成

＜2016年3月期概況＞

- 売上高は5,922百万円となり計画比103%
売上原価は旅行事業部門の要因により778百万円計上となったが、差引収益は5,145百万円を確保
- 路線バス事業の売上は1,150百万円と計画を22百万円上回り、また専属営業損益は計画比13百万円上振れが図れ、再生計画数値をクリア
- 軌道事業の売上は1,034百万円と計画を34百万円上回り、また専属営業損益は6百万円上振れが図れ、再生計画数値をクリア
- 営業費は、軽油単価の低位推移により動力費が再生計画比△162百万円を主要因として、△235百万円となり利益に寄与
その結果、営業利益段階で再生計画では△389百万円のところ△74百万円となり、315百万円上振れ
- 営業外収支では、有価証券配当増などの要因により31百万円上振れ
特別利益は、路線バス補助金424百万円、軌道関連補助金51百万円、軌道委託工事預り金精算73百万円等
特別損失は、事業再生関連費用138百万円(専門家費用・制服代・バス停改修等)、軌道委託工事圧縮損124百万円等
- 税引前当期利益225百万円、当期純利益152百万円と黒字計上

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等

諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却

営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・事業再生関連費用等

計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2015年4月～2016年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位：百万円

	2015/4～2016/3 12ヶ月	2015/4～6 第1四半期	2015/7～9 第2四半期	2015/10～12 第3四半期	2016/1～3月 第4四半期	2015/4～2016/3月 12ヶ月	達成率 ②÷①
	計画①	実績	実績	実績	実績	累計実績②	
売上高	1,128	294	298	284	274	1,150	102%
売上原価							-
差引収益	1,128	294	298	284	274	1,150	102%
人件費	757	177	209	219	190	795	105%
厚生費	87	24	31	26	31	112	129%
動力費	197	35	38	32	28	133	68%
修繕費	120	31	31	34	35	131	109%
物件費	29	4	9	5	8	26	91%
経費	164	31	47	43	43	164	100%
諸税	25	6	2	0	3	11	44%
減価償却費	60	18	19	19	20	76	126%
営業費計	1,439	326	386	378	358	1,448	101%
専属営業損益	-311	-32	-88	-94	-84	-298	-
減価償却前専属営業損益	-251	-14	-69	-75	-64	-222	-

＜差異要因等＞

- ✓ 売上高
 - 計画達成
- ✓ 費用
 - 人件費：時間外手当の増加
 - 厚生費：人件費増、科目計上ルール変更に伴い増加
 - 動力費：軽油単価の低位推移により低減
 - 修繕費：臨時修繕等あり
 - 物件費・経費等：ほぼ計画どおりの進捗
 - 減価償却費：計画に対しバス車両2両前倒し導入による増加（2015年4～9月に導入予定の2台を2015年3月期に前倒し）
- ✓ 専属営業損益
 - 売上計画達成、営業費全体数値はほぼ計画どおりとなった結果、専属営業損益は計画比+13百万円の結果となる

＜専属営業損益とは＞

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2015年4月～2016年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位：百万円

	2015/4～2016/3	2015/4～6	2015/7～9	2015/10～12	2016/1～3月	2015/4～2016/3月	進捗率 ②÷①
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第4四半期 実績	12ヶ月 累計実績②	
売上高	1,000	256	272	254	252	1,034	103%
売上原価							-
差引収益	1,000	256	272	254	252	1,034	103%
人件費	558	131	155	162	133	581	104%
厚生費	70	18	23	19	24	84	119%
動力費	77	18	21	18	18	75	97%
修繕費	46	10	13	20	10	53	114%
物件費	22	5	6	3	7	21	94%
経費	60	13	17	14	18	62	104%
諸税	15	2	1	3	0	6	39%
減価償却費	48	11	11	12	10	44	91%
営業費計	898	208	247	251	220	926	103%
専属営業損益	102	48	25	3	32	108	106%
減価償却前専属営業損益	150	59	36	15	42	152	101%

<差異要因等>

✓ 売上高

- 計画達成

✓ 費用

- 人件費：時間外手当の増加
- 厚生費：人件費増、科目計上ルール変更に伴い増加
- 修繕費：車両修繕の増加
- 物件費・経費等：ほぼ計画どおりの進捗

✓ 専属営業損益

- 売上計画達成、営業費は計画数値を上回るものの、専属営業損益は計画比+6百万円の結果となる

<専属営業損益とは>

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

計画と実績の対比（全社BS）

2016年3月末でのBSは、以下のとおりです

のれん控除後の実態純資産は+516百万円、借入金 は計画どおりの返済に加え、不動産売却(いの町)による返済を実施

単位:百万円	0期		計画比	1期		計画比
	計画 15/3	実績 15/3		計画 16/3	実績 16/3	
流動資産	1,658	2,235	577	1,573	1,965	393
現金預金	860	1,175	315	792	1,273	481
売上債権	577	821	244	560	492	-68
棚卸資産	82	73	-9	82	58	-24
その他	138	166	28	138	142	4
固定資産	6,112	6,319	207	6,137	6,196	59
有形・無形固定資産	4,787	4,759	-28	4,812	4,687	-125
(うち、のれん相当額)	935	935	0	810	810	-
投資その他の資産	1,325	1,560	235	1,325	1,509	184
資産の部	7,770	8,554	784	7,710	8,161	452
流動負債	1,167	1,620	453	1,124	1,333	209
仕入債務	798	1,121	323	789	797	8
その他	369	499	130	335	536	201
固定負債	5,603	5,630	27	5,666	5,392	-274
借入金	3,675	3,675	0	3,471	3,442	-29
その他	1,928	1,955	27	2,195	1,950	-245
負債の部	6,769	7,250	481	6,790	6,725	-65
純資産の部	1,000	1,304	304	920	1,436	516
負債及び純資産合計	7,770	8,554	785	7,710	8,161	451

指標の検討	計画0期	実績	計画比	計画	実績	計画比
実態純資産(のれん控除後)	65	369	304	110	626	516
有利子負債	3,675	3,675	0	3,471	3,442	-29
D/Eレシオ	3.7	2.8	-0.9	3.8	2.4	-1.4
実態自己資本比率(のれん控除後)	1.0%	4.8%	3.8%	1.6%	8.5%	6.9%

※D/Eレシオ=有利子負債(借入金)÷純資産

公共交通利用状況（路線バス）

路線バスの2015年4月～2016年3月利用状況は、収入は前年比99%、IC利用客数は前年比98%で推移

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

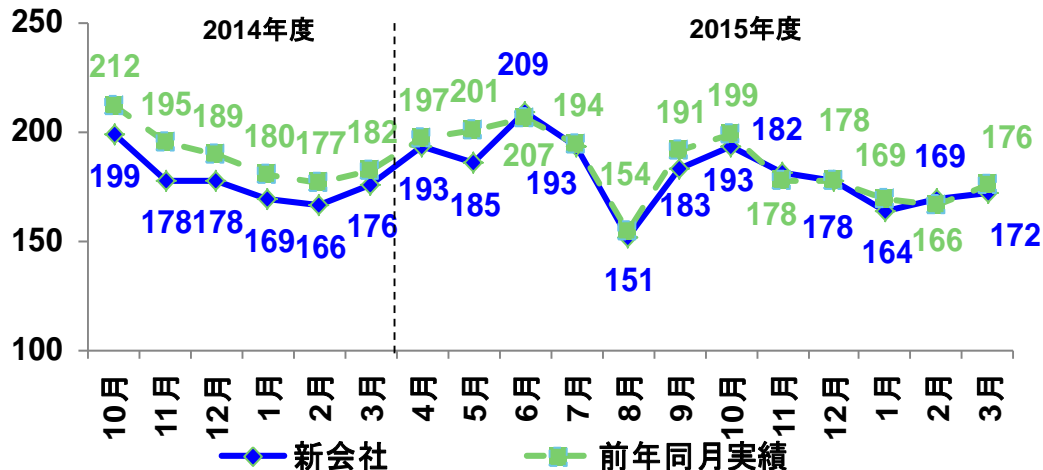
	2015/1～3月	2016/1～3月	2014年度通期	2015年度通期	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	12ヶ月 前年同期①	12ヶ月 実績②	
運送収入	273	265	1,136	1,120	99%
①定期全体	58	55	248	236	95%
②定期外収入	215	210	888	884	100%
うち、現金収入	118	115	478	483	101%
うち、SF	97	95	410	401	98%

※SFとは、ICカードに貯められた運賃のこと

＜路線バス収入の増減要因＞

- ✓ 2014年10月1日とさでん交通スタート時のダイヤ改正にて△2.5%、及び2015年10月1日のダイヤ改正にて△0.6%の減キロダイヤ改正を実施
- ✓ 2015年年度の雨天日が前年比+15日となった影響等により、現金収入が増加
- ✓ 定期収入は減少。2015年4月から新たに学生ワイドフリー家族割を導入。

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 人員はICカードのデータのみであり、定期・SF収入と同様の傾向
- ✓ 6・11・2月は前年比上回り、12月は同水準、以外は下回り推移
- ✓ 2015年度累計の今期利用客数は2,172千人、前年同期は2,208千人であり、前年同期比98% (ICカード利用客数)
- ✓ 統合直後半年の前年同期比は94%であり、今期に入り利用促進取組施策 (P9に記載) の効果が一定あらわれていると考える

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約70%

公共交通利用状況（軌道）

軌道の2015年4月～2016年3月利用状況は、収入は前年比104%、IC利用客数前年比101%で推移

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

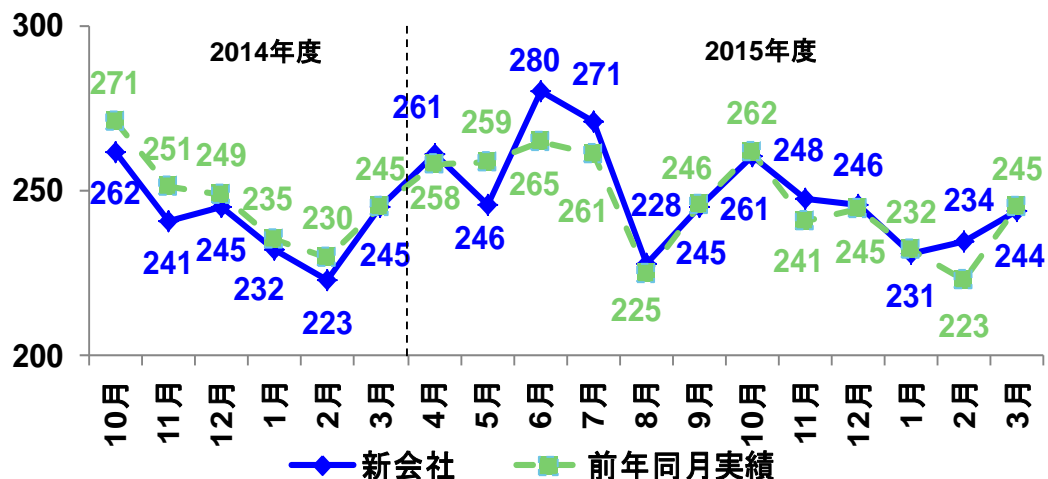
	2015/1～3月	2016/1～3月	2014年度通期	2015年度通期	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	12ヶ月 前年同期①	12ヶ月 実績②	
運送収入	221	222	906	938	104%
①定期全体	59	61	242	250	104%
②定期外収入	162	162	664	688	104%
うち、現金収入	105	106	427	450	105%
うち、SF	57	56	238	238	100%

※SFとは、ICカードに貯められた運賃のこと

<軌道収入の増減要因>

- ✓ 定期、定期外ともに増加
- ✓ 2015年4月～2016年3月の雨天日が前年比+15日となった影響等もあり、現金収入が大幅に増加

<利用客数推移> 単位：千人



<利用客について>

- ✓ 人員はICカードのデータのみではあるが収入と同様の傾向
- ✓ 各月によってバラツキがあるが、総じて順調に推移
- ✓ 2015年度累計の今期利用客数は2,995千人、前年同期は2,961千人であり、前年同期比101%(ICカード利用客数)
- ✓ 統合直後半年の前年同期比は98%であり、今期に入り利用促進取組施策(P9に記載)の効果が一定あらわれていると考える

※定期については、第3回報告まで発売日単位で集計を行っていたが、第4回報告分より利用実績による集計へ変更
前年数値も同数値へ変更

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約50%

路線バスと軌道のこれまでの取組施策は以下のとおりです。

内容	路線バス	軌道
■2015年4月1日～2016年3月末まで		
1. 学生ワイドフリー”家族割”定期券の発売開始	○	○
2. 移動手段に関するアンケート調査	○	○
3. 公共交通体験プログラム〈電車とバスで高知をうろちよる〉6・12月	○	○
4. 婚活電車の運行	-	○
5. 電車の日イベント開催	-	○
6. 高校県体応援一日乗車券の販売	-	○
7. ICですかナイスエイジキャンペーン実施	○	○
8. 春・夏・冬休み！キッズ定期券販売開始 7月14日から	○	-
9. サイクル&ショップライドの取組	○	○
10. 2015年10月1日ダイヤ改正	○	-
11. 障害者割引の拡大	○	○
12. 高齢者割引の拡大	○	○
13. ローラー活動(後免地区／潮見台・中野団地地区／長崎・鹿児島地区)	○	○
14. 鉄道の日 棧橋車庫見学会	-	○
15. 電車・バス乗り方教室(イオンモール高知)	○	○
16. ICですか体験(シニア交通安全フェスタ・高知県警)	○	-
17. 新春初詣きっぷ	○	○
18. ローラー活動(天王地区／文珠通・田辺島地区／十市パークタウン)	○	○
19. バス停の改修 50基 実施	○	-
20. 梅ノ辻電停改修	-	○
21. 2016年10月1日ダイヤ改正に向けたデータ収集	○	-
22. 電車・バスサービス一覧 ホームページへの掲載	○	○
23. サイバ電 特別一日乗車券の販売	-	○
■2016年4月1日～(参考)		
1. バスこっち導入	○	-
2. 乗継割引サービス(はりまや橋エリア限定)開始	○	○
3. ですかキャンペーン実施	○	○
4. 電車の日イベント開催	-	○
5. 公共交通体験プログラム〈電車とバスで高知をうろちよる〉6月	○	○

2015年4月～2016年3月の公共交通設備投資は、以下表のとおりです。

単位:百万円

事業	計画			実施		備考
	総投資予定額	主な投資内容	投資予定額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	107	補助車両(5両)の購入	107	55	安全安心、利便性向上	前年度に、当年度上期の2両を先行して購入 当年度3両導入
		利用促進・増収施策	0	3	利便性向上	バス停改修(50か所)
		その他	0	12	安全安心、利便性向上	リースアップ車(1両)および中古車(2両)の購 入、教習用車両改造他
軌道	139	レールの重軌条化工事	50	49	安全安心	
		き電線改良	11	12	安全安心	
		踏切保安設備工事	10	10	安全安心	
		電柱建替工事	7	8	安全安心	
		IP無線システム他	61	46	安全安心他	※ ¹ トラバーサ購入、※ ² ホイストの機能向上、IP無 線の購入他
合計	246		195			

<路線バス低床化率> 平成28年3月末時点
 路線バス車両数142両(空港連絡除く)、内低床車両52両、低床化率36.6%

※¹トラバーサとは、転車台
 ※²ホイストとは、吊り下げ式クレーン